

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101769		
法人名	株式会社ケイ・アール共進レジャー販売		
事業所名	グループホームサニー・ライフ		
所在地 (電話番号)	〒030-0822 青森県青森市中央4丁目9番地9号 (電話) 017-774-5555		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年4月2日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.1 歳	最低	74 歳
		最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中部クリニック、斉藤内科、青森協立病院、芙蓉会病院、ミナトヤ歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青森市の街中にあり、買い物、ドライブ、通院等とても便利な立地にある。グループホームの周りは交通量も多いが、事業所内はとても静かで生活しやすい環境である。事業所内も大きな窓から外光が入り、とても明るい雰囲気である。町内で管理している畑を借り、野菜作りをし収穫したり、近所の方がグループホームにその野菜を収穫して持ってきてくれたり、近隣との交流も積極的である。また、管理者を中心に職員も多くの研修会へ参加し、より良いサービスの向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念については、理念は以前と変わらないが地域の中で今までと同じように暮らしていけるようにと、全職員がその理念を理解し日々の業務に取り組んでいる。家族等の意見も引き出すように努め、それを会議で検討しサービスの向上に努めている。災害に関しては地域への呼びかけ等、今後に期待したい。居室については馴染みのものを持ち込め、安心して暮らせる環境になっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。また、評価後は改善に向けて全職員で話し合い、運営推進会議でも報告しアドバイスをもらいながらより良いサービスの向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回開催し、入居者の状況説明や行事や評価等の説明、報告がされている。参加者からの質問やアドバイスをもらいながら、運営推進会議後は報告書をまとめ全職員が目を通し、日々の業務にそれを活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	玄関に意見箱を設置したり、面会時に聞いたり、面会簿に意見等を書く欄もあり、意見等を引き出すように努めている。また、意見等があった場合は会議で検討し、家族に報告しすぐに対応できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内で管理している畑を借りて野菜を作ったり、グループホームの夏祭りに近所の方も参加されたり、地域の行事にこちらから参加したりと交流が図られている。また、訪問やボランティアも受け入れている。今後は災害時の対応で、近隣に協力を呼びかけて行く予定との事なので、今後の取り組みに期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で今までとできるだけ近い生活が送れるように「そのひとらしく、たのしく、しあわせに」というグループホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニットの階に掲示されている。また、職員一人ひとりが理念を把握し、日々の業務に取り組んでいる。会議等でも確認し理念を全職員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入り畑を共同で作ったり、地域の行事に参加したり、またホームの夏祭りにも近隣の方に来て頂いており、地域との交流が図られている。訪問やボランティアも受け入れている。近所の方から、認知症やグループホームの事を相談される事もあり、いつでも気軽に相談の対応ができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解されており、自己評価も全職員で取り組んでいる。評価後は職員で話し合い、サービスの見直しをし改善に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回開催し、入居者家族、地域包括支援センター、町内会長、民生委員が参加され、評価の結果や意見、要望等についても話し合いがされている。運営推進会議後は報告書をまとめ全職員に回覧し、サービスの向上に努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとは、入居等の相談や、その他連絡等は随時行っており連携が図られている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>マニュアルが作成され、いつでも見れるようになっている。また、外部研修に参加するなど、職員全員で理解できるよう努力されている。現在、権利擁護事業を利用されている入居者がおり支援している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について職員全員が理解している。また、マニュアルを作成している他、職員同士でお互いに注意しながら虐待防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に本人、家族には見学していただき、説明も十分になされ、納得されてから契約し不安がないように努めている。退居については入居時とその時点でも説明し、納得を得られるようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回料金支払い時に出納帳を確認していただきサインをもらっている。また、病院受診時にはその都度電話で報告したり、面会時や便りで普段の様子等を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱が設置され、面会簿の用紙には意見等を書く欄もある。また、面会時に何う等、苦情や意見等を気軽にさせるようになっている。意見等はその都度話し合わせ、サービスの質の向上に努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は少ないが、あった場合は職員間で引継ぎを行い、入居者へのダメージを防ぐように努めている。また、家族には運営推進会議や面会時に報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修があれば職員には積極的に参加を促しており、研修参加後は研修報告書を作成しそれを回覧しているが、内部での勉強会はほとんどない。		外部研修に多く参加されているので報告書の回覧で終わらず、参加者が内部で勉強会を実施する等し、全職員で勉強していくことに期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3ヶ月に1回、地域包括支援センターがリーダーシップをとって、地域の同業者が集まり地域ケア会議を開催しており、報告・相談等を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に不安のないよう入居前に本人、家族に説明・相談をし、入居の際には馴染みの物を持ってきてもらうなど工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の好きなことや得意なことを引き出し、共に支え合いながらできない所はさりげなく手伝い、職員は入居者本人を尊重した気持ちを持ちながら一緒に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族に意向を聞きながら、日々のサービスにその意向を取り入れている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントにはセンター方式を取り入れており、アセスメントの際には本人、家族と話をしている。2ヶ月に1回のユニット会議で全職員で話し合いを行い、本人にとってより良いケアを皆で話し合い介護計画書を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族とも話し合いながら3ヶ月に1回、または状態変化時にはその都度見直しをし、新たな介護計画書を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院通院時は本人や家族の希望に合わせて柔軟な対応をしている。また、外出や宿泊など希望があれば本人や家族の都合に合わせて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診もあるが、本人、家族の希望も取り入れており、どこの病院でも受診できる体制になっている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前には、かかりつけ医や家族と相談しながら方針を決めている。重度化や終末期の対応はしていないが、その都度家族には説明し理解を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護のマニュアルが作成され、職員一人ひとりがプライバシーを守ることを徹底しており、自尊心を傷つけないような言葉掛けをする等して日々の業務に取り組んでいる。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をずらしたり、入浴も希望を取り入れるなど、本人のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>簡単な下ごしらえや皿拭き等を出来る範囲で一緒に行っている。また、食事も嗜好や禁止の物も把握しており、それに合わせて提供している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回の入浴だが、希望があればいつでも入れる体制がある。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居前にやっていたことを本人、家族に聞き、それを把握しながら裁縫や手先が器用な入居者には折り紙を職員と一緒に作り、楽しんで生活できるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近所に散歩に行ったり、畑に行ったり、ドライブや買い物など、行きたい所に行けるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、職員一人ひとりが身体拘束をしないケアについて理解し取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、夜間のみ鍵をしている。常に職員が見守れるようにしている。玄関はセンサーボタンを押して外に出るようになっており、また、センサーボタンの場所は以前と場所が変わり、場所を変更した際には運営推進会議でも話され、皆に理解を得ている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災会社立会いのもと、年2回避難訓練を実施している。緊急連絡網も作成されており、職員がいつでもかけつけられるようになっている。		今後、運営推進会議で地域の人にも協力して頂けるように話していく予定との事なので、今後の取り組みに期待したい。また、夜間想定、地震想定 of 取り組みにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士があり、栄養を考えた献立を作成してもらっている。特に食が細い入居者に関しては、食事量や水分量をまめにチェックしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成しており、全職員が周知し、予防、対策に取り組んでいる。また、玄関には消毒液も設置しており、来訪者には声がけて消毒の徹底を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>湿度計や温度計を見ながら職員が適宜換気を行いながら、快適に過ごせるように配慮している。明るく、季節感を取り入れた飾りつけ等にも工夫している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に本人、家族と相談しながら入居の際には仏壇、テレビ、冷蔵庫、電話等、なじみの物を持ってきていただき、居心地よく過ごせる環境づくりをしている。</p>		

 は、重点項目。